

【国語／小説（語彙・表現）】

～ClassPad.net の多彩なふせん機能・同時編集機能を活用する～

言葉の意味の追究と、理解の深化を目指す授業

既習の言葉に向き合い、日本語にさらなる関心を持つ。

【本授業の目的・狙い・到達目標】

教師向けの目標：これまでに学んだ語の実際の使われ方やニュアンスを生徒に深く追究させることで、日本語に対する関心を持たせる。

生徒向けの目標：これまで学んだ語について、辞書上の意味にとどまらない細かいニュアンスまで考えることで、それぞれの語の特徴を知り、日本語の面白さを味わう。

【ClassPad.net 活用によるメリット】

- ・**プリント削減** : ファイル形式やテキスト形式など、さまざまな形のワークシートをすべてClassPad.net 上で配布したり、回収したりすることができる。
 - ・**生徒の集中力アップ** : EX-word を活用することで、信頼のある情報をベースに言葉の意味を考察することができる上、Web 検索等による生徒の注意散漫を防ぐことができる。
 - ・**探究学習促進** : 同時編集機能により、言葉の意味の追究における意見の交わし合いとそれによる学習の深化を、リアルタイムで共有し、思考を深めることができる。

授業の流れ

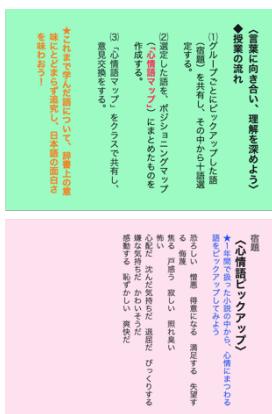
ClassPad.net での操作

概要の説明

（宿題にて、1年間で扱った小説の中から心情にまつわる語をピックアップしてきている状態）

宿題の確認のち、「グループごとにピックアップした語を共有 → その中から10語選定し、それをポジショニングマップにまとめたもの（本授業においては「心情語マップ」と呼称）を作成 → クラスで共有」という流れを伝える。その上で、この活動によってこれまでに学習した小説に出てくる語彙の総復習をするとともに、それぞれの語について、実際の使われ方やニュアンスの違いについてさらに深く追究するという活動の意図を伝える。

step1



step2



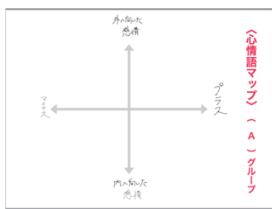
マッピング①

クラスをいくつかのグループに分ける。
そして、宿題にてそれぞれがピックアップしてきた語を共有し合ったのち、その中から 10語を選定させる。

授業支援機能を用い、宿題（語をピックアップしたテキストふせん）をメンバー同士で共有し合う。その中から、グループで扱う語を選定する。

グループごとにデジタルノートを作成・共有し、グループで選定した語をテキストふせんにまとめておく。

step3

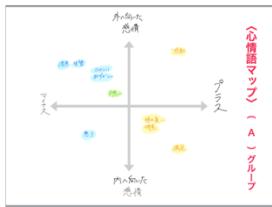


マッピング②

ポジショニングマップの2つの軸の内容をグループごとに決め、マップの枠に記させる。軸の両端は、対立する内容になるよう注意するよう伝える（例：プラス/マイナス、動/静、汎用/限定など）。

ポジショニングマップの枠はあらかじめ教員がExcel等で作成しておき、ファイルふせんにして、授業支援機能を用いて各グループの代表の生徒に配布する。代表の生徒はそれをグループのデジタルノートに配置し、同時編集機能を利用してグループごとに2つの軸の内容を書き込む。

step4



マッピング③

マップ上にグループで話し合いながら語を配置し、「心情語マップ」を完成させる。

step3で作ったマップのファイルふせんに、手書き機能で語を書き込む。

step5



マッピング④

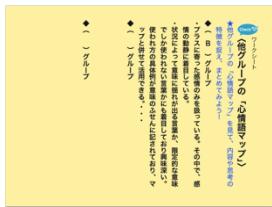
扱った10語について、「辞書上の意味」「授業内で扱った小説の中での使われ方と、グループごとの解釈（なぜそこにマッピングしたか）」を記したふせんを作成し、分類ごとにまとめる。

「辞書上の意味」はEX-wordふせん、「授業内で扱った小説の中での使われ方と、グループごとの解釈」はテキストふせんを用いるというように、ふせんを使い分ける。出来上がったふせんは、語ごとにスライドショー化する。

また、デジタルノート上では、マップ上のポジションごとに語のふせんをまとめて配置する。

※Ex-word機能は有償になります。別途ご購入いただくことでこの機能はご利用いただけます。

step6



共有・意見交換

グループごとに作成した「心情語マップ」を、クラスで共有する。共有された各グループの「心情語マップ」の内容を確認し、そのグループの思考を理解した上で、特徴を書かせる。

授業支援機能を用いて、グループごとに作成した「心情語マップ」およびその意味が記されたふせんをまとめたデジタルノートを、クラス全体に共有させる。またテキストふせんを用いて、「心情語マップ」の特徴をまとめさせる。

step7



まとめ・宿題

授業内容を振り返り、宿題として、「言葉との向き合い方」についての考えを「心情語マップ」の作成に関連づけて書くことを伝える。

宿題はテキストふせんに記載させ、課題として回収する。この際、提出期限を設定し、計画的に添削・返却ができるようにする。

step8



参考・補足

今回の授業のように、言葉には微妙なニュアンスや使われる場面によって解釈の余地が存在するということに関連して、似たような意味の言葉にその違いが現れることがあるということの参考として、類語辞典について説明、例を提示する。

リンクふせんを用いて、参考文献（例：三省堂『新明解類語辞典』など）を紹介する。時間に余裕があれば、授業内でテキストふせんに記載した実例も提示する。